

1. 自然ガイド・登山ガイド、および一部山岳ガイドにおける ガイド対顧客標準人数比率に係る規定

平成23年4月1日制定・施行
社団法人日本山岳ガイド協会

1. ガイド対顧客の標準人数比率（ガイドレシオ）の三原則

1) 安全管理

本会認定の自然ガイド、登山ガイドおよび山岳ガイドは、個人顧客、集団登山、ツアー登山、講習会等の業務（講師、指導者を含む）中、常に現場状況と顧客・参加者の行動と体調を把握し、安全を踏らなければならない。

また、危険に係る注意喚起等の適切な指導、危急時の迅速な対応等、安全管理責任者として注意・配慮を怠ってはならない。そして安全管理こそ、ガイドが顧客・参加者に提供できる、最も重要なサービスであることを認識しなければならない。事故を予防するためにガイド1名が扱える顧客・参加者の人数の標準を明確にすることは、極めて重要である。

2) 自然環境保全

われわれ人間も生態系の一部であることを認識し、自然に対する畏敬の念を忘れてはならない。過大な参加者数を許容することは、安全管理のみならず自然や生態系に及ぼす衝撃も強烈である。ガイドは、自然への衝撃を最小限に留め（ローインパクト）、良好な自然の状態を保つよう努力し、適正なガイド対顧客比率を守り、且つ、顧客・参加者に率先して自然環境保全に留意し、指導しなければならない。

3) 第三者への配慮

ガイドは業務中、自然愛好者、一般登山者等の他者への迷惑にならぬよう、常に心がけなければならない。適正なガイド対顧客人数比率を守ることが、この観点からも重要である。また、場所の独占を慎み、譲り合いの精神で礼節を守り、行動中の混雑の回避等の配慮に努めなければならない。

.....

ガイドはこれらの三原則を遵守し、日々の行動時間、標高差、コース難易度、気象状況や地形・積雪の危険度、ロープ等による安全確保手段の有無とともに、顧客・参加者の体力、経験、技術、現場での体調等々を勘案し、安全確保に努めなければならない。その中で、本会ガイドが職能別に備えている経験、技術、体力、知識を基準に、注意深く業務を行えるガイド対顧客の標準人数比率は、別表のとおりである。

高山や険峻な山岳地形、あるいは避難小屋や幕営（キャンプ）でのガイド業務では、整備された登山道で、且つ、標準人数比率を超えない場合であっても、安全管理上、複数のガイド若しくは、同等の経験を有するアシスタント（助手）を配置することが望ましい。標準人数比率を超える場合には、当然ながら、複数のガイド（主任とその他）を配置するか、ガイドが信頼する同等の能力を有する人材（助手）を配置する必要がある。（この措置は、登山ガイドステージI資格者が十分な数だけ認定される期間を目安としての暫定的な対応とし、その後廃止する。）

また、人数比率とともに団体行動の場合、自然観察路等では、同一コース上に2グループ以内、登山道では、同一コース上に2～3グループ以内の活動とすることが望ましい。

別表のガイド対顧客標準比率、および参考ガイディング・ルート表が、各種団体や旅行業者が主催するツアー登山（旅程管理者同行の有無に係らず）の基準となるよう、雇用されるガイドは、積極的に説明し、理解を得られるよう努めることが必要である。

また、ガイドは、安全や自然保護への配慮に欠ける企画に関与することを避けるべきである。

2. 対外的な周知の義務、懲戒、およびガイド助手について

職能範囲、ガイド対顧客の標準人数比率、参考ガイディング・ルート等は、本会が職能別に定める、経験、技能を満たす認定ガイドとして、標準的な時間内での業務遂行が可能な範囲を定めたものである。

これに伴って、ガイドは、自らの職能範囲等を、顧客、契約者等の外部に対し、その契約形態に係らず、判り易く明示しなければならない。（ガイド本人の募集も含む）

また、ガイドは、標準人数比率の大幅な超過や職能範囲を逸脱しての事故が発生した場合には、そのことを以って業務上の過失責任を問われる可能性が高いことと、本会の定める懲戒規則第2条の項目（3、顧客に対する契約不履行、4、資格違反行為、等）に抵触する恐れがあることを意識すべきである。

ガイドは、これらを念頭に置いて対外的な契約をし、慎重に業務を行う必要がある。

<ガイド助手について>

以下は、本会認定ガイドが、各種団体、旅行業者等の委託を受けてガイディング契約する場合を想定して設ける基準である。（登山ガイドステージI資格者が十分な数だけ認定される期間の暫定的な対応とし、登山ガイドステージIに代わるため、廃止される。）

（山岳ガイド分野における助手規定、国際山岳ガイド分野におけるアスピラン・ガイド制度等は、別に定める）

<助手の基準について>

1. ガイドが選任する助手は、ガイドの監督責任下で、ガイドが指示する安全管理業務等を行う。
2. ガイド助手が分担できる顧客人数は、本ガイド対顧客人数比率の半数程度とする。
（この基準は、登山ガイドステージI資格者が十分な数だけ認定される期間の暫定的な対応とし、登山ガイドステージIに代わるため、廃止される）
3. 本会ガイド1名に対してガイド助手は1名までとする。
4. ガイド助手は次の要件を満たすものとする。
 - ①ガイド資格を有さないが、ガイドと同等の経験、知識、体力を有する者。
 - ②旅行業者が選任し、派遣する場合は、旅行業ツアー登山協議会制定のツアー登山運行ガイドラインに記載（注：参考文書参照）の引率者能力を有している者。
但し、この場合には、ガイド助手選任の責めはガイドに帰属しない。

(参考文書) 旅行業ツアー登山協議会制定

ツアー登山運行ガイドライン (5ページ) 記載の引率者に関する記述

- (1) 責任感、使命感、倫理観を充分にもち、引率者の役割を理解していること。
- (2) 旅行業に関わる法令等を理解していること。
- (3) 装備、食糧等準備段階において適切な安全配慮ができること。
- (4) 実地において危険の存在を説明し、注意喚起できること。
- (5) グループの編成能力があること。
- (6) 歩行速度と休息について適切な判断ができること。
- (7) 被引率者の歩行能力、技術、健康状態等を的確に把握し、過度に疲労させないこと。
- (8) クサリ場、梯子、崩壊地等、危険が予見される場所においてその通過に際し、指導、助言ができること。
- (9) 悪天候や不明瞭な登山道等において危険回避の指導、助言ができること。
- (10) 地形図の読図能力があること。
- (11) 気象に関する知識があること。
- (12) 緊急不時露営の判断ができ、設営技術があること。
- (13) 救急救助法の基本的知識と技術があること。
- (14) 救助要請の方法、救助隊との連携について理解していること。
- (15) 安全配慮義務を理解し、「努力義務」を徹底履行できること。

2. 職能およびガイド対顧客標準人数比率表

1. 無積雪期

- 自然観察路等 (職能：自然ガイドステージⅠ・Ⅱ)
里地・里山における整備された道、および湖沼、湿原等における整備された自然観察路等。
1日の歩行時間の目安は、2～3時間程度 **1：15**
- ハイキング道等 (職能：自然ガイドステージⅠ・Ⅱ、登山ガイドステージⅠ・Ⅱ)
山地・高原等における整備された登山道や遊歩道等。
1日の歩行時間の目安は、3～4時間程度 **1：15**
- 登山道 (初心者～初級者向きのコース) (職能：登山ガイドステージⅠ・Ⅱ)
ガイドブック等で初心者～初級者向きまたは一般向きと示され、1日の行動時間は4～5時間程度で、明瞭で整備され安心して歩くことができる登山道。 **1：12**
- 登山道 (中級者向きのコース) (職能：登山ガイドステージⅠ・Ⅱ)
比較的明瞭で一部危険箇所があるが、鎖や梯子が取り付けられている登山道で、数泊に渡る縦走形式を含む。但し、テントまたは避難小屋泊の縦走登山および難路・険路を除く。
1日の行動時間は6～8時間程度。 **1：10**
- 登山道難路 (上級者向きのコース) (職能：山岳ガイド)
急峻な山岳地形のコースで岩場、岩尾根、鎖場、梯子等の危険箇所が連続し、あるいは急な雪渓、残雪崩落箇所、沢の横断、渡渉等、足場がきわめて不安定で場合によって一部ロープによる安全確保が必要とされるコース。テントまたは避難小屋泊の縦走登山。 **1：5**

2. 積雪期・残雪期・新雪期

- 里地・里山の自然観察路等 (初心者、自然観察愛好者) (職能：自然ガイドステージⅡ)
雪崩の危険箇所がなく安心して歩くことができる里地、里山。 **1：15**
- 山地・高原ハイキング道等 (初心者、自然観察愛好者) (職能：登山ガイドステージⅡ)

雪崩の危険箇所が少ない山地、高原。 1 : 15

●雪山登山道（初級者コース＝無積雪期中級者） （職能：登山ガイドステージⅡ）

無積雪期の登山道に沿い、森林限界を越えない範囲の山地。例え森林限界以下であっても、地形上、雪庇、雪稜、氷雪等の発達が認められる場合や、アイゼン、ピッケル等の森林限界を越える登山同様の基本技術が求められる山地は、業務範囲外。 1 : 10

●雪山登山道（中級者～上級者コース＝無積雪期上級者～熟達者） （職能：山岳ガイド）

森林限界を越える雪山登山、および登攀を除く氷雪技術を求められる地形。 1 : 5

ここに記載されない山岳ガイド、登攀ガイドの業務範囲については、平成19年度制定の規定に準ずる。なお、平成23年夏以降に向けて山岳ガイド、登攀ガイドの業務範囲の見直しを行っているのでご注意ください。

3. ガイドの標準日当

この目安は、無積雪期における一般登山道及び登山道難路の場合で、ガイドが扱う顧客人数は、参考表に表示される人数上限を限度とする。

半日	2～4時間くらいの実働	15,000円
1日	5～8時間くらいの実働	30,000円

○実働とは、登山開始場所での行程開始から、登山終了場所に到着するまでを言う。

○この日当は標準日当であり、顧客の選択するコース、ルートおよび自然状況により、別途、それぞれのガイドが定めるところによる。

○積雪期においては、前項同様、別途それぞれのガイドが定めるところによる。

○行動時間の延長や悪天候に伴って発生する、延長料や拘束料ないしは超過ガイド日当は、別途それぞれのガイドが定めるところによる。

○個人を対象とした特殊なルート・ガイドや、多人数を対象とした実地講習会及び机上講習会等、団体講習については、別途、それぞれのガイドが定めるところによる。

以上

3. 自然ガイド・登山ガイド・山岳ガイド職能別・標準ガイドング・コース表
(参 考 例)

1、無積雪期

形態・対象	職 能	概略、山名、コース等	人数比率
自然観察 ハイキング	自然ガイド 登山ガイド	里地・里山における整備された道、および湖沼、 湿原等の整備された自然観察路、遊歩道等。 1日の歩行時間の目安は、2～3時間程度。 里地・里山以外では、知床五湖、白神十二湖、上高地 周辺地形、立山室堂周辺地形、樽池自然園、日光戦場 ヶ原、御在所岳頂稜部等々。 上記同等の各地自然探訪コース	1 : 15
ハイキング 登 山 初心者 初級者	自然ガイド 登山ガイド	山地・高原等における整備された自然観察路、登山 道等、1日の歩行時間の目安は、2～4時間程度。 日本百名山では、伊吹山、筑波山、美ヶ原、霧ヶ峰、 八幡平、蔵王山、那須茶臼岳、赤城山、大菩薩嶺、 草津白根山、天城山、四国剣山、乗鞍岳、大台ヶ原山、 阿蘇山等々、交通路終点からの最短一般向コース。 高尾山、箱根山、六甲山等のハイキングコース。 熊野古道、信越トレイル、高島トレイル、八ヶ岳 周遊トレイル、東海自然歩道等々の一部。 上記同等の各地高原・山地・山岳コース	1 : 15
登 山 初級者 中級者	登山ガイド	登山ガイドブック、登山地図、現地での案内等々に おいて、初級者～中級者向き、または一般向と表示 され、整備された登山道。 1日の歩行時間は3～5時間程度。 日本百名山では阿寒岳、大雪旭岳、岩木山、八甲田山、 早池峰山、月山、西吾妻山、安達太良山、磐梯山、 至仏山、皇海山、谷川岳、雲取山、四阿山、浅間山、 立山、木曾駒ヶ岳、御岳山、蓼科山、荒島岳、大山、 九重山、霧島山、開聞岳等々、交通路終点からの最短 一般向コース。 上記同等の各地山地・山岳コース	1 : 12
登 山	登山ガイド	比較的明瞭で危険箇所が一部あるが、鎖や梯子等が 整備され、一般登山者の往来が多い登山道。 登山難路を除く。 1日の行動時間は6～10時間程度。 日本百名山では、羅臼岳、利尻山（利尻ルール 1 : 4～6優先）、斜里岳、幌尻岳、十勝岳、トムラウシ山、 羊蹄山、岩手山、鳥海山、飯豊山、大朝日岳、那須 三本槍ヶ岳、会津駒ヶ岳、越後駒ヶ岳、平ヶ岳、	1 : 10

中級者		<p>巻機山、燧ヶ岳、雨飾山、苗場山、妙高山、火打山、高妻山、男体山、日光白根山、上州武尊山、白馬岳、五龍岳、鹿島槍ヶ岳、薬師岳、黒部五郎岳、水晶岳、鷲羽岳、槍ヶ岳、奥穂高岳、常念岳、笠ヶ岳、焼岳、赤岳、両神山、甲武信岳、金峰山、瑞牆山、富士山、空木岳、恵那山、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、鳳凰山、北岳、間ノ岳、塩見岳、悪沢岳、赤石岳、聖岳、光岳、富士山、白山、荒島岳、大峰山、石槌山、祖母山、宮之浦岳等々、交通路終点からの最短一般向コース。</p> <p>上記同等の各地山岳コース</p>	
登山 上級者	山岳ガイド	<p>急峻な山岳地形のコースで岩場、岩尾根、鎖場、梯子等の危険箇所が連続し、あるいは急な雪渓、残雪崩落箇所、沢の横断、渡渉等、足場がきわめて不安定で、場合によっては一部ロープによる安全確保が必要とされるコース。初心者・初級者向けの沢登りコースも同様。</p> <p>避難小屋、幕営、露營等による複数泊の縦走登山。 1日の行動時間は8～12時間程度。</p> <p>北海道 ペテガリ山縦走、札内川八ノ沢～カムイエクウチカウシ、大雪山～トムラウシ山縦走、 東北 飯豊連峰縦走、朝日連峰縦走 越後 越後三山（魚沼三山）縦走、荒沢岳 群馬 妙義山各ルート 北信 戸隠山（蟻の戸渡り）～一不動等 北ア 劔岳別山尾根、不帰キレット、北穂高岳～奥穂高岳、南岳～大キレット～北穂高岳、西穂高岳～奥穂高岳、毛勝三山、下の廊下、 南ア 鋸岳～甲斐駒ヶ岳</p> <p>上記同等の各地山岳コース</p>	1：5

※上記の各コースおよびガイド対顧客人数比率は、当然ながら、顧客・参加者の経験、体力、体調によって変化するものである。また、各種の自然条件、交通事情等々、不可避な状況によっても変化するものである。ガイドは、事前に顧客・契約相手者等々に変化・変更の用件を伝え、十分な理解をもらうよう努力しなければならない。特に、ツアー登山参加者等に多い、体力が十分でない、あるいは集団の中で体力差がある場合には重要である。

2、積雪期・残雪期・新雪期

(新雪期：10月～11月、積雪期：11月上旬～3月下旬、残雪期：4月上旬～5月下旬
但し、地域により異なる。)

形態・対象	職 能	概略、山名、ルート等	人数比率
自然観察 ハイキング 初心者 初級者	自然ガイド ステージⅡ 登山ガイド ステージⅡ	雪崩の危険箇所が無く、安心して歩くことができる 里地・里山の自然観察路、遊歩道、林道、整備され たクロスカントリー・スノーシューのコース等々。 主に自然観察を目的とする楽しみとしての歩行。 スノーキャンプ体験等も含む。 里地・里山の他は、知床自然センター周辺地形（フラ ベの滝等）、白神十二湖、日光・戦場ヶ原、各地スキー 場隣接地形で、夏の遊歩道、自然観察路に沿う地形。	1 : 15
ハイキング 登 山 初級者 中級者	登山ガイド ステージⅡ	雪崩の危険が少ない山地、高原で、道路、林道、ハ イキング道に沿った自然地形。クロスカントリース キー、スノーシュー、軽アイゼン等を利用するガイ ディングを含む。 中の湯～上高地、美ヶ原、霧ヶ峰、北八ヶ岳麦草峠 乗鞍高原～位ヶ原周辺、榎の森～榎池自然園、入笠 山、高峰高原周辺地形等々。	1 : 15
登 山 中級者	登山ガイド ステージⅡ	無積雪期の登山道に沿ったルート。森林限界を越え ない範囲の山地。 雲取山、大菩薩嶺、北八ヶ岳高見石小屋、黒百合ヒュ ッテ周辺、縞枯山荘周辺、4月5月立山室堂平周辺、 八方尾根八方池周辺、開田高原周辺、奥美濃大日岳 等々。	1 : 10

※無積雪期の登山道に沿い、森林限界を越えない範囲の山地。例え森林限界以下であっても、
地形上、雪庇、雪稜、氷雪等の発達が認められる場合や、アイゼン、ピッケル等の森林限界
を越える登山同様の基本技術が求められる山地は、業務範囲外。

また、標高が低くとも北海道、東北、上越、北関東等々では、森林限界を越える場合が多い
ので、要注意。

ここに記載されない山岳ガイド、登攀ガイドの業務範囲については、平成19年度制定の規定
に準ずる。なお、平成23年夏以降に向けて山岳ガイド、登攀ガイドの業務範囲の見直しを行
っているのでご注意ください。